

# 第Ⅱ期中期目標・中期計画

2026年4月～2029年3月



学校法人ノートルダム女学院

## 建学の精神

創設者マザーテレジア・ゲルハルディンガーが、イエス・キリストの福音に基づいてめざした教育の精神に沿って、神に創造され、愛されている児童・生徒・学生一人ひとりのもつ可能性が完全に開花され、平和な地球社会の発展に貢献できる人間の育成をはかる。

## 教育理念

『徳と知』をモットーとする全人教育  
カトリック精神に基づき「人が変われば、世界も変わる。」という信念をもって、知性と品格をそなえた学生の育成を目指す。  
誰もが神に愛され、お互いに愛し合うかけがえのない尊厳存在であることをわきまえ、知性を磨き、自分で考え、判断し、選ぶ力をそなえた自立した人間となる。そして多様な人間同士の、また、人と自然界との共生の大切さを知り、そのために行動できる人となる。

## ミッション・コミットメント

『尊ぶ』 人と自分、物と自然の全てに敬意をもって向き合います。  
『対話する』 心をこめて聴き、かかわりから学び、真理を探究します。  
『共感する』 心を開き、人や時代の要請に敏感な感性を持ちます。  
『行動する』 対話し、決断し、責任をもって人々の幸せと世界平和のために行動します。

## 学校法人ノートルダム女学院 中期目標・中期計画 (期間 2026年4月～2029年3月)

「本学院は全ての児童・生徒・学生が自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を培う場でなければならない。現在学校現場において急速にすすむ少子化問題の中、グローバル化や情報化などの急激な変化に伴い、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、様々な言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育む必要がある。

変化の激しい時代、社会のニーズ等に対応し、明るく・元気で・活き活きとした学校生活、安定した経営を実現させるため、本学院では2025年から5年間を見据えた第Ⅱ期中期目標・中期計画を策定し、更なる教育活動の充実、発展を目指していく。」を掲げて第Ⅱ期中期目標・中期計画をスタートしたところであるが、2026年4月からの大学の学生募集停止及び2026年4月の小中高の学校法人ヴィアートル学園への事業譲渡など法人経営の根幹に関わる大きな決断を立て続けに行ってきた。このため、本法人の中期目標・中期計画を変更する必要性が生じるとともに、「教育理念」等を併せて変更することとした。

なお今後、本法人は大学の閉学後速やかに清算手続きを行い、解散することとなる。

### 自律性のある教育

- ①知性と品性をそなえた合理的配慮の促進、日常化
- ②多拠点サポートによる学習支援のさらなる充実化
- ③個別最適化、協働的な学びの充実化
- ④PBL型授業の深耕
- ⑤自己管理能力・自己決定能力の育成

### グローバル

- ①カトリック精神に基づくグローバル・ミッションへの取り組み
- ②国際化とその推進体制の整備
- ③ノートルダム・ネットワークを活かした教育機会の提供
- ④ICTとの連携

### 社会連携・社会貢献

- ①地域や地元企業との連携、教育・研究の成果の還元
- ②教育・ボランティア活動を通じ社会全体の問題解決・福祉の向上に寄与

### 働き方改革等

- ①労働時間の状況把握・産業医・産業保健機能の強化・衛生委員会の設置・健康診断の実施・メンタルヘルス対策
- ②業務の明確化・適正化・生産性の向上
- ③各種会議の再編成
- ④閉学に向けて教職員の処遇の検討

### 学生の支援

- ①一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな教育支援体制の堅持
- ②これまでと変わらない学生生活を支える環境の提供
- ③キャリア支援や進学支援の一層の充実

## 経営基盤

### 「自主性」「公共性」「安定性」の追求

財源の確保及び管理

教職員研修

### 「健全性」「透明性」「確実性」の確立

施設・設備の維持保全

コンプライアンスの徹底

ガバナンスの強化

危機管理体制の強化



急速にすすむ少子化と混迷を極める社会を前にして、その解決の担い手となる人材を送り出す大学の役割はますます高まる。貴重な若者であるからこそ、多様な学生を誰一人取り残すことなく、社会で一定の役割を果たせるように育てることが求められる。男女格差が根強く残る日本の社会では、柔軟性、個性ある対応が可能な小規模女子大学の役割はまだ存在するといえる。それだけに、社会的使命を全うしないまま、閉校していくことには忸怩たる思いがあるものの、「徳と知」の建学の精神と、行動指針としての「ミッション・コミットメント」に基づき、混沌とした社会を生き抜く知恵や見識と、社会に共生、協働の和を広げる人間性を養成する、少人数の女子教育に最後まで徹底して取り組む。同時に創設以来育んできた京都、北山の地域との関係性を尊重し、研究成果の還元や教員、学生の地域への貢献活動を引き続き推進する。連携大学をはじめこれまで関係を深めてきた他大学や連携先企業、団体、それに卒業生などの協力を仰ぎながら、教育・研究活動や学生の課外活動などを活発に展開、最後の卒業生を見送るまで情報発信していく。

## 対話と実践による女性支援教育

- ①批判的、総合的思考力と人間性を養う経験学習の充実化
- ②教育の基軸とする「国際性」の新たな展開と深化
- ③学修意欲を誘発し主体的な学びを保证する制度やカリキュラムの維持・運営
- ④初年次教育から卒業研究まで一貫した個別対応重視の教育体制の整備、継続
- ⑤授業手法の多元化と綿密な履修指導による個別最適な学修環境の提供

## 人と文化に関わるエッセンシャル研究

- ①地域の諸課題に取り組む研究や地域特性を活かした研究を奨励、強化
- ②研究成果の地域への積極的な発信、還元
- ③開かれた研究拠点として、外部機関との連携や学会・研究会の誘致

## 個別性、重層性ある学生支援

- ①合理的配慮の促進、日常化
- ②多拠点サポートによる学習支援のさらなる充実化
- ③正課授業外の社会的、文化的活動の奨励、支援
- ④学生の学びやアメニティに資する行事、イベントの創出

## グローバルな社会連携・貢献

- ①カトリック精神に基づくグローバル・ミッションへの取り組み
- ②京都府、京都市、左京区、および京都の企業との連携活動の継続、充実化
- ③「知の拠点」としてのリカレント教育と地域の聴講需要にそった公開講座の推進

## 女性支援拠点としての安定した大学管理・運営

- ①教育、研究活動を保证する人事体制の維持、整備
- ②教育、研究活動を保证する財務計画
- ③財政状況を踏まえた施設の維持管理計画
- ④IT環境の最適化を図るシステム、機器の整備、管理
- ⑤教育、研究活動及び大学運営に関する大学ステークホルダーへの適切な説明と社会への情報発信